



令和2年8月2日オンライン研修会

青島日本人学校

昨年度の実践と今年度の予定



2019年度 青島日本人学校の取組

- ①課外の日本語教室
- ②個別の日本語指導
- ③在籍級での日本語指導
- ④全学年でのバイカルチュラルの視点からの教科指導

①日本語教室

- ・小学部1年生
- ・毎週金曜日（課外・45分間）

＜開設するにあたって＞

入学前に日本語指導が必要な児童の保護者と相談。入学直後に日本語教室での学習を開始。

1学期(4月～7月):生活に必要な日本語

⇒ 1日も早く周囲とコミュニケーションができるために必要な語彙を中心に学習する。

| | 毎週金曜 | 学習内容 | 教材 |
|----|------|----------------|----------------|
| 1 | 4/19 | ぼく・わたし | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 2 | 4/28 | かぞく | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 3 | 5/5 | いろ・かたち① | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 4 | 5/10 | いろ・かたち② | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 5 | 5/17 | ごはん・おやつ① | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 6 | 5/24 | ごはん・おやつ① | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 7 | 5/31 | やさい・くだもの | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 8 | 6/14 | せいかつ① | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 9 | 6/21 | 4月～6月の復習 | |
| 10 | 6/28 | せいかつ②・どうぶつ | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 11 | 7/5 | はな・き、きせつ | おひさま (はじめのいっぽ) |
| 12 | 7/9 | いたい | 日本語学級① |
| 13 | 7/12 | わすれた、かして、ありがとう | 日本語学級① |
| 14 | 7/19 | 1学期の復習 | |

2・3学期(8月~1月) ⇒ 教科内容の先行・補充学習

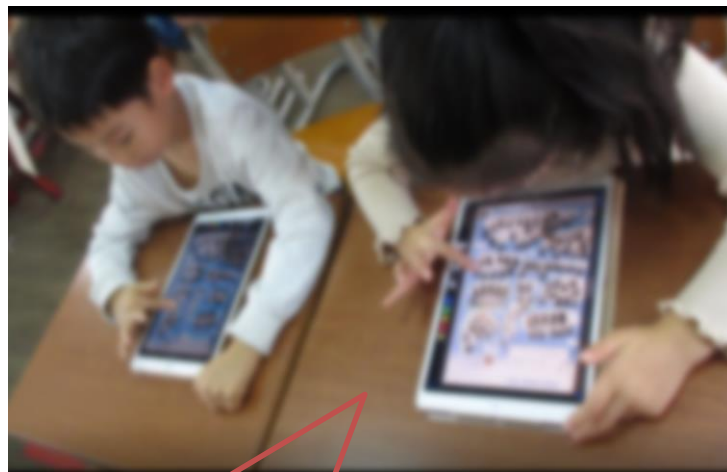
| | 毎週金曜 | 学習内容 | 教材 |
|----|-------|----------------|---------------|
| 15 | 8/23 | これ・それ・あれ・どれ① | 日本語学級① |
| 16 | 8/30 | これ・それ・あれ・どれ② | 日本語学級① |
| 17 | 9/6 | ～は（イ形容詞）です | こどものにほんご① |
| 18 | 10/11 | くじらぐも | 教科書（こくご） |
| 19 | 10/18 | ～が あります/います | こどものにほんご① |
| 20 | 10/25 | 助詞の用法 | こどものにほんご① |
| 21 | 11/15 | じどう車くらべ | 教科書（こくご） |
| 22 | 11/22 | 日づけとよう日、おおきいかず | 教科書（こくご・さんすう） |
| 23 | 11/29 | 日づけとよう日②、数え方 | 教科書（こくご・さんすう） |
| 24 | 12/6 | たぬきの糸車 | 教科書（こくご） |
| 25 | 12/13 | たぬきの糸車② | 教科書（こくご） |
| 26 | 1/10 | どうぶつの赤ちゃん | 教科書（こくご） |

台北日本人
学校の実践
を参考にし
ながら取り
組みました。



VI_0816

「**田づけとやん田**」
こたつの使い方に関心を持ちました。



「**おおきかず**」

iPadを使って、10ずつ囲みました。10のまとまりを理解することができました。

「**たぬきの糸車**」

カルタを使って語彙を確認しています。



「**とんぼ車くまぐり**」
在籍級でのまとめに向けて、「しんじ」「しんり」「のキーワードを見つけ、メモしました。



小1の個別指導で気付いたこと

- 4月～10月は吸収する時期。
- 11月以降に、たまった水があふれだすかのように、急激に発話量が増える。

【A児童の例】

11月のある授業中、バイリンガルの子どもたちが、日本語教室で学習するA児童に教師の指示を通訳した。それに対し、「**わたし わかる！**」と日本語で怒った。

この日まで、ほとんど進んで日本語で発話することがなかった。この日を境に、表情が明るくなり、発話が増えた。

②個別の日本語指導(取り出し)

※週1回、個別の取り出し指導を行っている。
(昨年度は2名の生徒が対象)

★中1(1名)→毎週金曜日
⇒在籍級は学活の時間

★中2(1名)→毎週火曜日
⇒部活動の時間



小6の夏に現地校から転入。

(例) 着物(和服)を(きる)→(き)ています。

- ① 帽子を(かぶる)→(かぶ)っています。
- ② ブラウスを(きる)→(き)ています。
- ③ かばんを(もつ)→(も)っています。
- ④ めがねを(かぶる)→(かぶ)っています。
- ⑤ ネクタイを(つかう)→(つか)っています。
- ⑥ スポンを(はく)→(は)いています。
- ⑦ スカートを(きる)→(き)いています。
- ⑧ 時計を(つける)→(つけ)ています。
- ⑨ くつを(はく)→(は)いています。
- ⑩ ベルトを(つける)→(つけ)ています。

中1男子の指導記録より

特に理科と社会への困り感が強い
ため、担当はできるだけ在籍
級の授業を見に行き、個別指導
の時間に支援している。

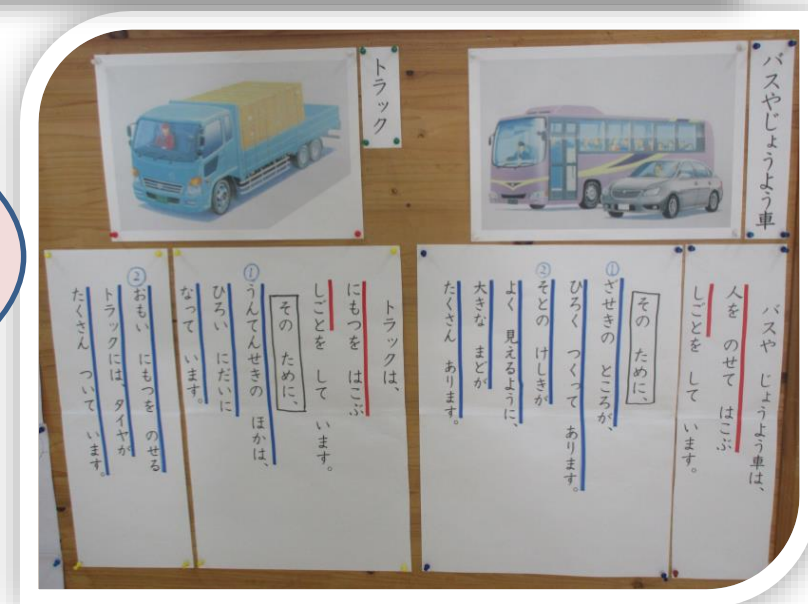
| | |
|--------------------------|---|
| 13 | 学習項目；～て います (身につけていることを表す)、～て ～て (順次動作) |
| 9/27 (金) 岡本 (音楽室) | 1. 「する、きる、かける、はく、かぶる」→「～ている」の復習 2. 宿題点検 3. 教科の学習用語 (理科) 4. 「～て ～て」P. 22～ |
| 指導メモ | ・動作に関する動詞は全て忘れていた。繰り返し確認する必要がある。 ・発話時に、夕行に濁点がついてしまうので、時々修正した。 ・明日から国慶節の連休ということもあり、連休の過ごし方について、うれしそうに教えてくれた。また、先生はどのように過ごしますか?と質問し、会話が弾んだ。 今日の理科の授業で、「実験の結果を予想しよう」という発問の意味が理解できず、プリントに何を書けばよいのか分からなかったため、書き方を説明し、復習をした。 |
| 14 | 学習項目；～は (主題) ～が (部分説明) |
| 10/18 (金) 岡本 (音楽室) | 1. 「する、きる、かける、はく、かぶる」→「～ている」の復習 2. 文型練習 (P. 25～) ① ～は (主題) ～が (部分説明) ② ～くて (イ形容詞+形容詞) ③ ～で～ (ナ形容詞+形容詞/名詞の接続) |
| 指導メモ | ・1の正答率は50パーセント。動作をしながら語彙を確認した。 ・2の文型は定着している。問題ない。 ・中国語の「那个」と日本語の「なんか」は発音も用法も似ていて、不思議な感じがする。と話し、語頭の「なんか」は、いつ・どのように使うのか、と中国語で質問してきた。楽しそうに日本語の学習に取り組んでいた。 |
| 15 | 学習項目；～てもいいですか。～てもいいです。 |
| 11/15 (金) 岡本 (音楽室) | 1. 「する、きる、かける、はく、かぶる」→「～ている」の復習 2. 文型練習 (P. 36～) ①いいですか ②～ないで ください ③～そうです (様態) ④～みたいです (比較) 3. 教科の学習用語について困っていることを聞く |
| 指導メモ | ・文型練習「～ないでください」の動詞の変換ルールがなかなか理解できずに涙ぐむ場面もあったが、「あいうえお表」を用いてルールを確認したところ、変換のイメージがつかめたようだ。・期末テストが迫っており、理科と社会に困り感があるようなので、次回の日本語教室では学習日本語について勉強する約束をした。今日は中国語で教師に話しかける場面が多かった。 |

③在籍級での日本語指導



「自動車くらべ」

クレーン車のしごとと
つくりをまとめよう



在籍級担任が心がけていること (ポイントと成果)

ポイント

- ・動作化
- ・作文指導
- ・掲示物の作成
- ・音読指導
- ・動画や写真の利用
- ・曜日や月日の言い方

成果

音読

ほとんどつかえることなく、初めて見る文章でも正しい発音で音読することができる。

発話

- ①教科書の物語文や説明文の理解ができている。
- ②言葉による置き換えが可能（「えものをとる」⇒「かりをする」）
- ③物語の好きなところを日本語で言ったり、中国語で説明したりすることができる。
- ④学校からの連絡を、家族に中国語で説明できる。

作文

簡単な文章を作文することができる。

④バイカルチュラルの視点からの教科指導

本校の中期目標:

「多様性を理解し、自他を尊重しながら切磋琢磨する
児童生徒の育成」

バイリンガル・バイカルチュラル人材育成のために

児童生徒が中国や青島での生活や学習を通して

- ★世界には多文化・多言語・多様な価値観があることについて理解する
- ★日本の習慣・文化・伝統との比較、検討する

物事を多面的・複眼的に捉えることができる児童生徒

★各教科の取組

10/21 職員研修 バイカルチュラルの視点からの教科指導

・各教科の授業の中で、日本と中国の共通点や相違点などを考える場面を設定するには、どのような活動が考えられるか。

| | | |
|------------------|---|--|
| 国語 (中山) | <ul style="list-style-type: none"> ・下関交流（異文化交流、中国を紹介する） ・音読指導（朗読） ・漢詩 ・漢字（音読み・訓読み・成り立ち） | |
| 算数 (岩本・福留) | <ul style="list-style-type: none"> ・計算、数字の言い方、買い物ゲーム ・九九の唱え方、算数用語 ・多面的なものの見方、考え方 ・場所や地名を問題に取り入れる | |
| 理科 (尾崎・長崎) | <ul style="list-style-type: none"> ・天気、気候、科学的な話説の比較 ・植生 ・地質 | 視覚支援（動画、画像） 漢字（ルビ）←中国語 用語カード 短い文章 |
| 社会 (小谷) | <ul style="list-style-type: none"> ・中国の歴史 ・アジアについて→中国をより深く単元構成 ・<u>二つの文化を持つ児童生徒が活躍できる</u> (比較対象) | |
| 英語・中国語 (迎・吉浦) | <ul style="list-style-type: none"> ・年中行事で日本と中国の文化を比較する（食文化、新学期、春節など）。 ・文法（主語+動詞）など、英語と中国語の比較 ・漢字（中国語と日本語の意味の違いを英語で学ぶ）。 | |
| 音楽 (岡本) | <ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲を一番日本語、二番中国語で歌う。・唱歌を中国語で歌う。 ・日本民謡と中国民謡を歌ったり、楽器で演奏したりする。 ・日本と中国の伝統楽器（箏、横笛など）を弾き比べる。 ・中国から日本に伝わった楽器について、共通点と相違点を調べる。 | |
| 図工・美術 (富川) | <ul style="list-style-type: none"> ・図工は日本特有の教科。 ・アートを通して世界とつながる ・アーティスト、文化遺産（雪舟、北斎、墨絵、世界遺産） | |
| 体育 (徳永) | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ全般のルール ・国技（相撲、太極拳、卓球） ・交通ルール ・飲酒、喫煙、病気の対処 | |
| 技術・家庭 (吉田) | <ul style="list-style-type: none"> ・日本料理と中国料理（盛り付け、数、残す残さない、考え方、マナー、礼儀など） ・中国から日本へ伝わった料理。 | |



二胡の演奏(音楽科)



芝麻球(ごま団子)づくり
(中国語)

2020年1月
Zoomによる
授業公開

中1社会(地理)の実践から 「世界から見た日本の自然環境」

5. 本時の学習 (3/6)

(1) 目標

・ 景観写真や統計資料を参考に、日本と中国、世界一の河川の比較を通して日本の川の特徴を考察する。

【思考・判断・表現】

・ 川と平地の関連に着目し、平地には平野や盆地など多様な地形が見られることをつかむとともに、地形と土地利用の関連について理解する。

【知識・理解】

(2) 展開

| | ○主な学習活動・学習内容 | ・教師の支援と指導上の留意点 ◎評価 | 資料 |
|------------------|--|---|---|
| 活動の開始 10 | ○川と平野について二つの写真を比べてどちらが日本の写真をかき出す。 全席 | ・世界の川と平野については、世界の諸地域での既習事項にかかわる写真からスタートして想起させる。その際、小学部6年生の修学旅行に行った時の黄河の写真を入れて興味・関心を高めさせる。 | プレゼンテーションソフト 『どっちが日本?』 ワークシート |
| | ○学習課題を知り、答えの予想を立てる。 個人 | ・このクイズを通して意欲と頭に浮かんだ内容や小学校の既習事項として学んだ地理的特色を、まずは言葉としてまとめさせる。 | |
| 活動の展開 ① 20 | ○グラフと景観写真などを参考にしながら、日本の川と中国を含めた世界の川を比べて特色をまとめる。 全席 ⇒ 個人 | ・生徒が書いた内容については、他の模範となる回答には線を引く。 ◎世界と日本の川をグラフや景観写真、主題図などを用いて比較し、それぞれの位置や形状の特色を考察している。 【思考・判断・表現】 | 河川の景観写真 グラフ 『世界の川と日本の川』 |
| | ○それぞれが記述したことを発表し、他の人の発表から気付いた内容をメモする。 小集団 | ・教師は間に入り、発表がスムーズにいくように助言しながら回る。 ・面積の大きい中国とブラジルの河川の特色が似ていることに注目させる。 | ワークシート |
| 活動の展開 ② 15 | ○川川の浸食・運搬作業によってさまざまな地形がつけられることを理解する。 個人 ⇒ 全席 | ◎平地の種類やでき方、土地利用の様子について、地形図や景観写真の読み取りから理解している。 【知識・理解】 | ワークシート |
| | ○学習課題に対する答えを記述する。その後、数人の生徒に発表させる。 個人 ⇒ 全席 | ・扇状地、三角州のでき方や土地利用のされ方については複雑な内容なので詳しく説明する。 ・日本の河川が世界の河川と比べて短く急流となっていることに注目し、その河川が日本の平野の面積を小規模なものにしていることに気付かせる。 | ワークシート フランスとの比較資料 |
| まとめ 5 | ○評価コーナーに本時の意見や感想を書く。次時の授業についての確認をする。 | ・分かったこと、気づいたことを具体的に記述させるようにする。 | 評価コーナー |

二つの文化を持つ生徒は、

☆川の写真を見て、「長江!」「黄河!」
と、すぐに反応があった。

★今後は単語で終わらせずに、思いや
考えを短い文章で言えるようにしたい。



2020年度 青島日本人学校の取組

- ① 中学部「日本語取り出し指導」の個別指導計画を作成する。
- ② 学校全体で国際理解、多文化共生を行うための学校用マニュアルを作成する。

今年度の日本語指導

①課外の日本語教室(小1・小2)

⇒小1:金曜日、小2:月曜日

②個別の日本語指導(中1・中2・中3)

⇒中国語や学活の時間に取り出し指導を行っている。

③在籍級での日本語指導

①日本語教室の様子(小1)



4～5月オンライン日本語教室 (週2回)

自己紹介や持ち物、教室での言葉
などを学習しました。

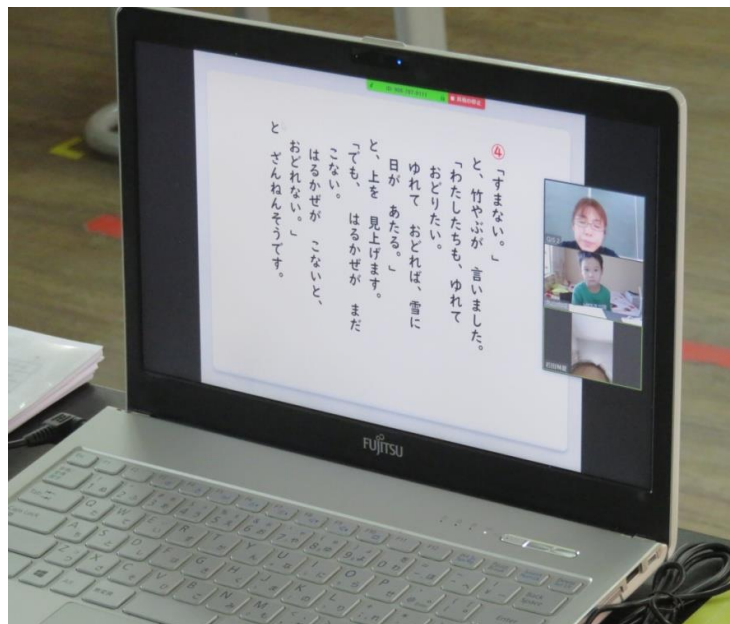


6月～学校生活で必要な日本語

わすれた/かして/ありがとう
けがをしました/頭が痛いです など

ロールプレイやインタビューを多く取り入れ、
発話重視で進めています。

日本語教室(小2)

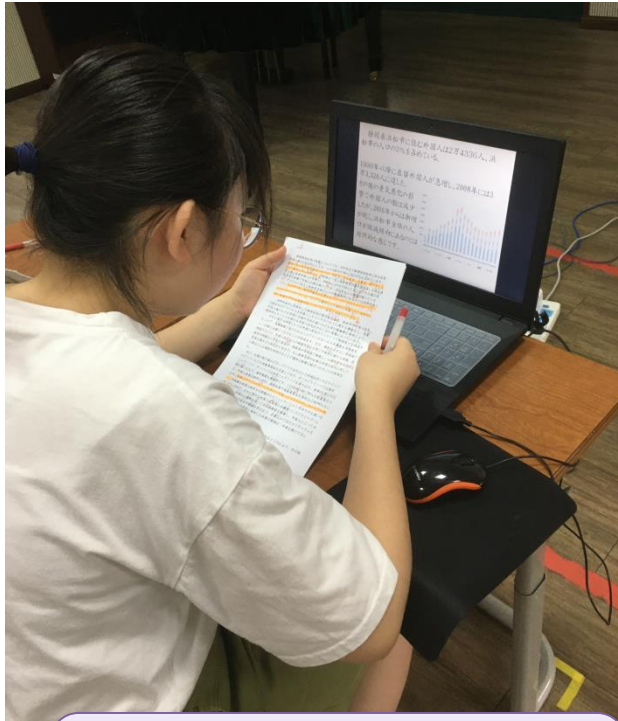


4～5月オンライン日本語教室
(週1回)
国語の先行学習を行いました。

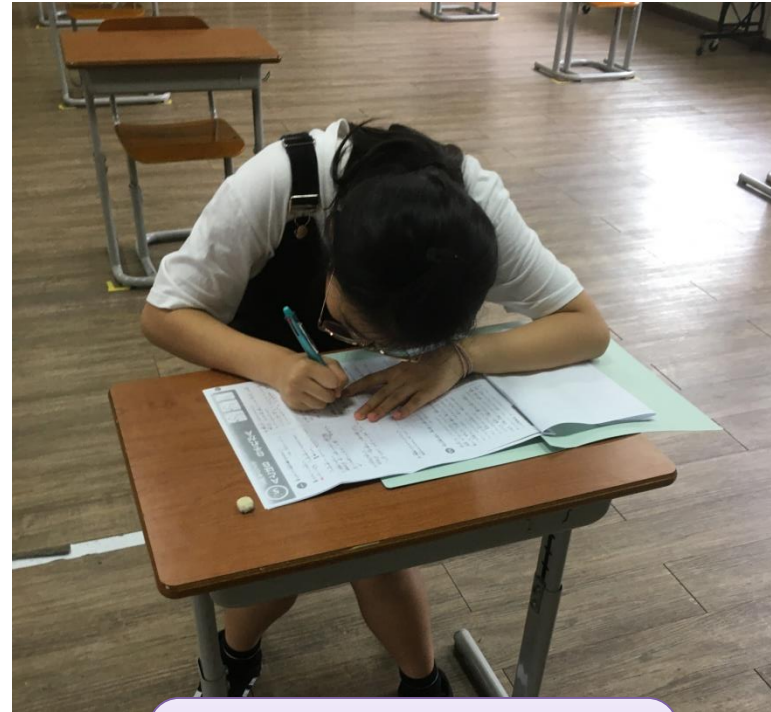
6月～先行・補充学習
担任と相談しながら、国語と算数の
先行・補充学習を行っています。

② 中学部・取り出し指導

4～5月はオンライン
による学習(週1回)



社会科・調べ学習発表会
に向けて(中3)



国語・短作文の練習
(中1)

担任・教科担任に授業の様子を聞きながら、必要な学習を行っています。

指導メモより

中1

- ・授業について聞いたところ、「国語、理科、数学については理解できる、歴史は学習用語が難しくて覚えにくい」と話している。
- ・音読をさせると、イントネーションは単語の語頭にアクセントがつくことが多い。また、訓読みの単語を音読みで発話してしまう場面が多く見られる。カ行、タ行の発音に濁点がつく。
- ・短作文を書くときに、中国語の母語干渉の影響がみられる。「デパートは、おしゃれの服の売っているの所」など。
- ・語彙力がつけば、日本語力が飛躍的に伸びると思われる。

中2

・数学の教科担任から、文章題になると理解できていないようだ、との話を受けて、授業で使ったスライドを用いて復習を行った。概ね理解できているが、**学習用語が正しく読めていない**。位を「い」、数を「すう」、和は「よめません」と訴えた。各教科について、**学習用語の確認をしていく必要がある**。

・日本での生活経験がないため、問題文中に日本の生活についての内容があるとイメージがわからないようである。

・iPadを使用してローマ字入力をさせたが、ローマ字が分からないため苦労していた。

・漢字を読むときに中国語読みになる。

中3

・小5の夏休みまで現地校に通い、それまで日本語の環境になかった。本人は、**まだ授業の内容やクラスメートの会話のすべてが分かるわけではない**、と話している。

・音読指導では、アクセントの位置やカ行とタ行に濁点がつかないように読む練習をしている。

・N2のテキストを使用して、語彙を増やす学習も行っている。

※指導メモをもとに、中学部の指導計画を作成していきます。

③在籍級での日本語指導



小1国語 「くちばし」の授業から



どうぶつクイズ

(「とい」と「こたえ」の学習)

⇒教科書の内容をワークシートに
まとめ、それと同じ形で作りました。

学校用「多文化共生マニュアル」作成にむけて

- ①各学年、各教科で「国際理解・多文化共生」の視点を意識した授業を行い、他の日本人学校でも応用できるような汎用性のある学校用マニュアルを作成する。
- ②マニュアル作成のために、本校でこれまで培ってきた国際理解教育の活動に、
 - ・多様な人とかかわる機会をつくることで他者と関係を作り出す力、
 - ・課題を他者とのかわりを通して解決する力、等の視点を入れて、実践を積んでいく。

実践例
中3社会科

多文化共生のまちづくり成功事例の 調べ学習を通して、私たちに求められて いる態度を論述する授業

2020年7月
Zoomによる
授業公開



『多文化共生事例集』に載っている多文化共生のまちづくりの成功事例から共通点を読み取り、最終的には私たちに求められる態度を論述できました。また、「多文化共生2.0」や「インターカルチュラルシティ」などの最新情報も学び、これからの多文化共生の在り方を考える機会となりました。

オンライン交流会

小学部は、生活科や総合的な学習の時間などに、日本の小学校とオンライン交流会を行う予定です。

★昨年度の取組から



小6 下関市小学生訪問団交流会

- ①自己紹介・アイスブレイク(交流ゲーム)
- ②青島日本人学校6年生の紹介
- ③交流ワークショップ(日中交流をテーマとして)
- ④感想のシェアリング



おわりに

今後も教職員全員でバイカル
チュラル人材の育成に取り組んで
いきたいと思えます。